

Title	言語文化学 Vol.1 編集後記
Author(s)	
Citation	大阪大学言語文化学. 1 p.155-p.155
Issue Date	1992-03-31
oaire:version	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/78214
rights	
Note	

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

編集後記

昨年、言語文化研究科一期生の修士論文が提出され、言語文化学専攻の学術修士第1号が誕生した。本誌に紹介されているように、そのテーマは諸外国の言語政策や言語文化の比較研究、異文化間のコミュニケーションの研究、コンピュータを使ったさまざまな言語情報の処理やその基礎としての文章構造の分析など広い範囲におよんでおり、それぞれ新しい発見がなされたと考えている。

しかし、言語文化学という専攻そのものがわが国ではまだ新しい研究分野であり、研究成果の発表の場が充分保証されているとはいえない。本誌は言語文化研究科院生・院修了者と言語文化部・言語文化研究科の教官の共同の研究発表の場として創刊されるものである。論文掲載にあたっては、基本的にそれぞれ3名のレフリーに判断をお願いし、その結果を編集委員会で検討した。

今回の創刊号の発行に際しては、以下の方々にご協力をお願いし、多数の貴重なコメントをいただいた。感謝の意を表すと共に、本誌論文に対する多数の皆様のご批評・ご批判をお願いしたいと思います。

赤井慧爾、今井光規、岩根久、大高順雄、大谷泰照、大森文子、岡野輝男、北村卓、木村健治、木村茂雄、齋藤衛、坂内千里、佐々木史郎、高岡幸一、玉井俊紀、津久井定雄、津田葵、中埜芳之、成田一、波田節夫、日野信行、広瀬雅弘、平田達治、深澤一幸、藤田耕司、細谷行輝、溝邊敬一、宮川清司、由本陽子、渡辺伸治。
(敬称略)

1992年3月

編集委員会

この創刊号は、富士通製 S-4/2 上の $\text{j}\text{L}\text{A}\text{T}_{\text{E}}\text{X}$ を使用して編集され、沖電気製 MicroLine801PS で出力されたものを、そのまま写真製版で印刷した。(表紙を除く。)